

あんげろす

ヘボンをメタファーとしてよむ

ユニヴァーシティ・アイデンティティがますます重要になりつつある状況において、明治学院大学がその出発点にヘボン博士夫妻をもつことは、まことに大きな歴史的・精神的財産である。この国と学院への奉仕のためにその生涯をささげたヘボン夫妻の生きかたは、われわれのところに深く刻まれ、これからも本学の歩みへの道しるべでありつづけるにちがいない。

だが、その際、私たちはまた、ヘボン夫妻に内的促しをあたえ、かれらへの道しるべとなった存在のあったことを忘れないようにしたいと思う。ヘボンをよむ座標軸といったものがあるとすれば、他者への奉仕というヨコ軸とともに、それをささえるタテ軸があったのである。それは人間をこえた超越者へのかれらの信仰であり、ヘボン夫妻の人格と生における深みの次元でもあった。つまり、ヘボンをヘボンたらしめた秘密である。



加山久夫

第 34 号

2004. 6.